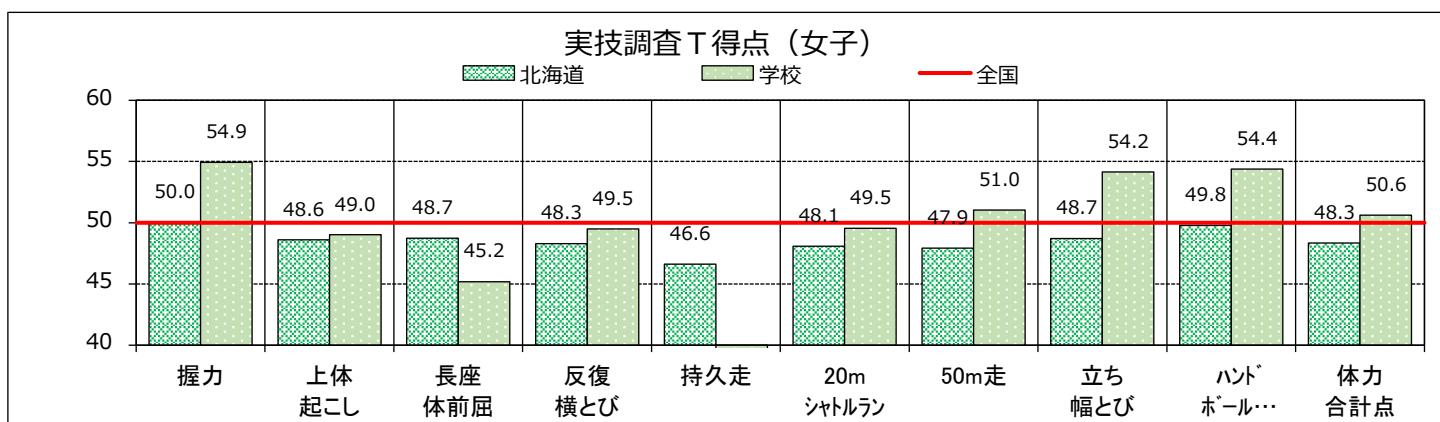
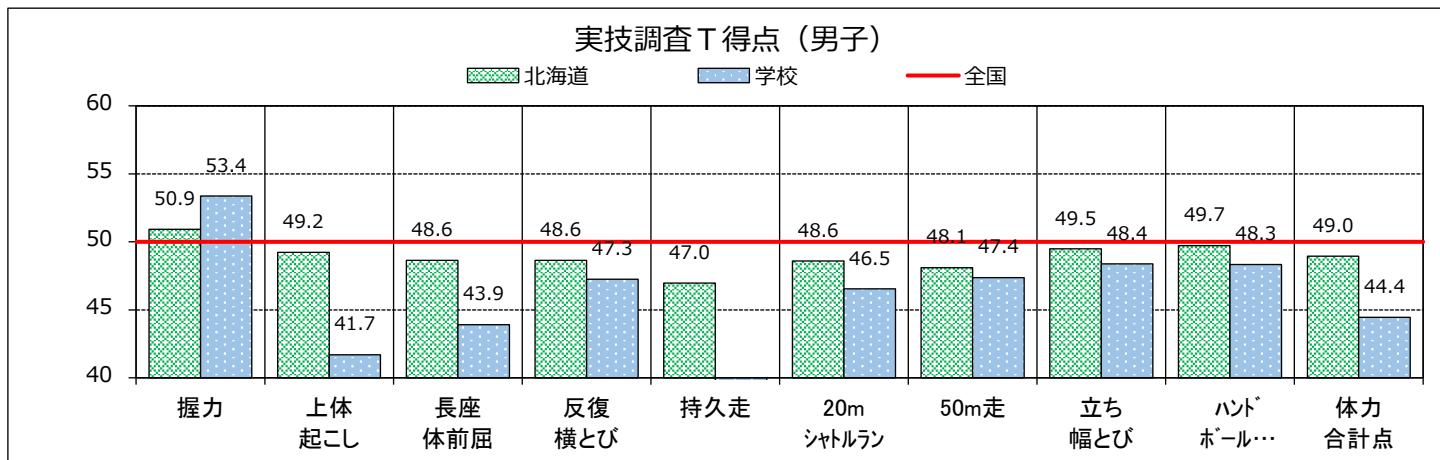


# 令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査より

以下のグラフは本校の今年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を示しています。グラフは、今年度の中学校2年生の学校平均・北海道平均・全国平均の3種類を示しています。これらを分析し、今後の具体的な指導の改善に結びつけていきます。

## 実技検査の結果

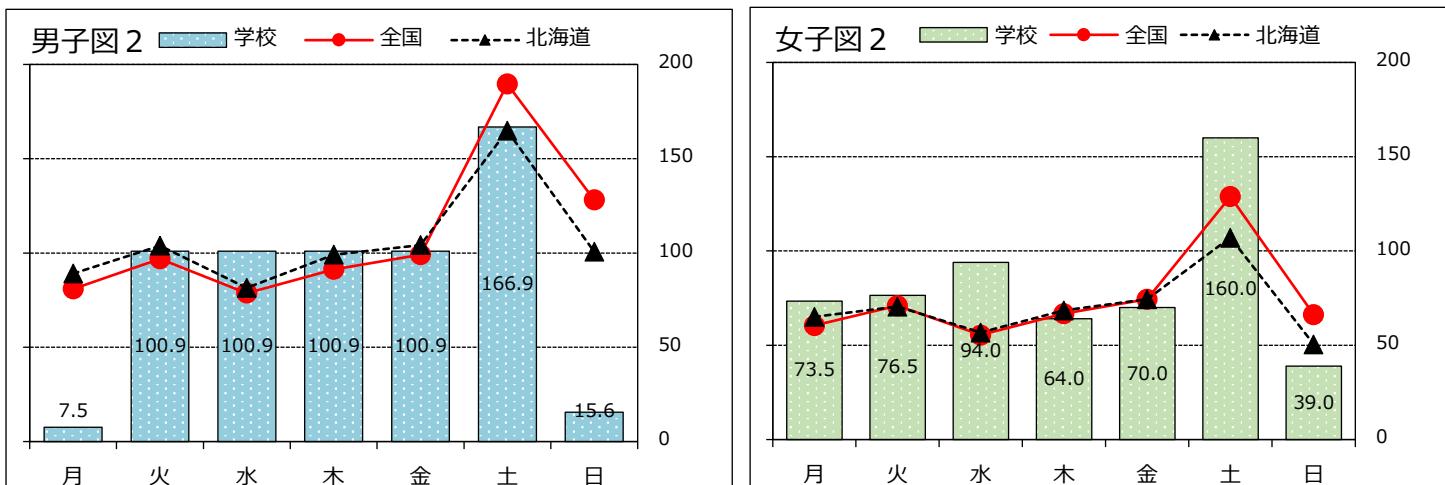
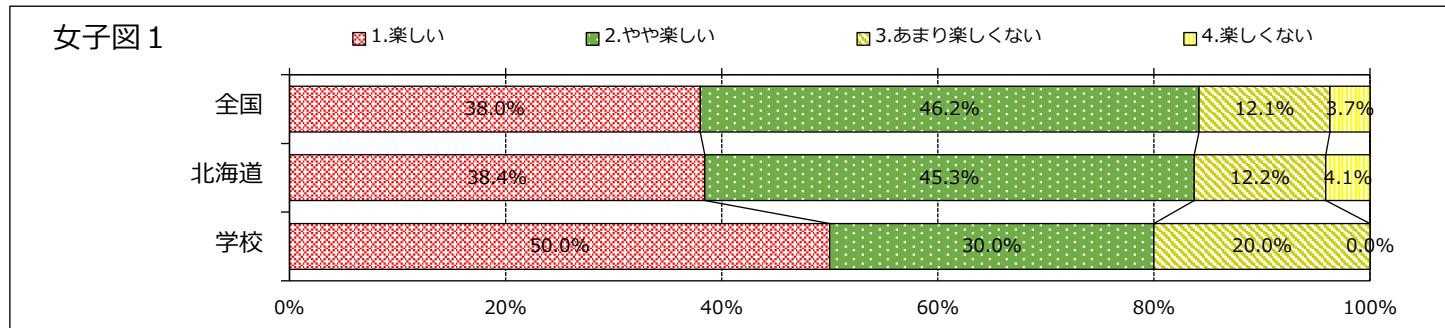
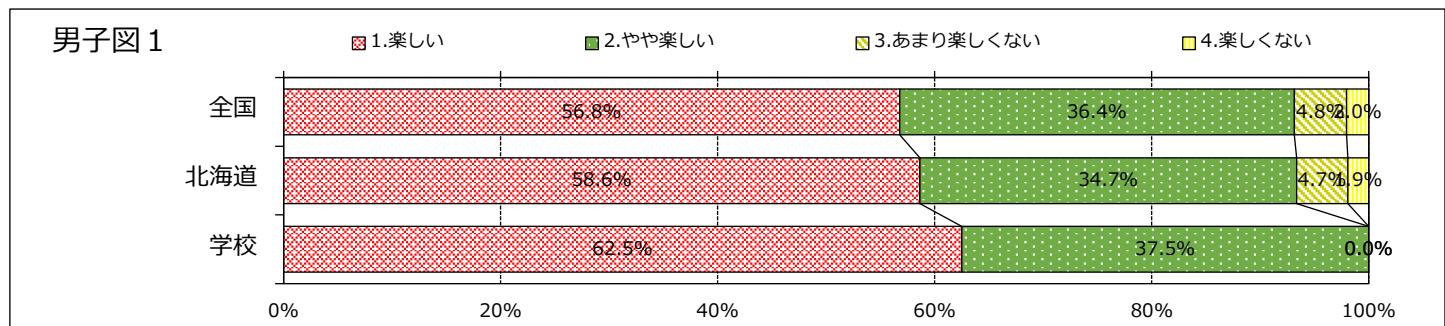


### 【分析】

男子は握力以外すべての項目で全国・北海道平均共に下回った。この結果や日々の授業から、筋力はある程度あるが、それを発揮させるための体の使い方を苦手とする生徒が多数いると分析できる。そのため、継続的に体つくり運動なその他の単元を通して様々な体の使い方を行う必要性がある。

女子は男子と対照的に多数の種目で平均値を上回ることができた。要因としては小規模校ならではのすべての単元において男子と合同で授業を行うことによる、基礎体力の向上があげられる。今後も継続的に指導しつつも、唯一平均を下回った、『柔軟性』の部分に力を入れたい。

# 質問紙の結果



## 【分析】

図1は「体育の授業は好きですか」という質問項目である。男女ともに「楽しい」と答える割合が圧倒的に多い結果となった。男子に至っては、楽しくないと答えた人数が0人となっている。今後は「楽しい」→「いろいろなことに挑戦してみる」→「できた」→「できるから楽しい」と段階を経て体力向上につなげていきたい。

図2は学校の活動（体育や部活動）以外の時間の運動量の統計結果である。男女ともに、平均よりも少し下回っている日が多い。学校外の運動について呼びかけを強化し、家でもできる運動の紹介もしていく必要がある。学力同様、学校・家庭・地域が一体となって意識していくことが、体力向上につながるといえる。